

目次

【巻頭言】

社会福祉学はどこにその拠り所を求めるのか？ 細井 勇 (6)

【特集 日本の戦後史(2) 労働と福祉と教育の関係を問う
—1960年代から70年代に焦点を当て—】

基調講演：社会福祉学の方法—回顧と展望— 古川 孝順 (10)

労働と福祉と教育の関係を問う
—1960年代から70年代に焦点を当て— 細井 勇 (25)

夜間中学から見る戦後日本の教育と福祉・労働
—1960～70年代の学生サークルに着目して— 江口 怜 (43)

1960～70年代のマイノリティの社会運動と社会福祉 西崎 緑 (59)

筑豊と出会い、イエスと出会う

—社会運動の工業的性格はいかに乗り越えることができるか— 犬養 光博 (75)
労働組合と教育からアナーカ・フェミニズムへ 稲井 智義 (85)

【投稿論文】

東京における社会事業関係者の検挙
—1930年代および1940年代における検挙の比較—

渡邊 かおり (93)

児童福祉法成立時の保育所規定をめぐる浦辺史の解釈とその思想的背景
—思想的背景の戦時期から戦後への連続性— 佐藤 光市 (107)

空知炭田における生活困窮者救済
—「エネルギー革命期」の北海道美瑛市を事例として— 平 将志 (123)

【特別寄稿】

辻聴花と災害支援の慈善公演
—民国時代の義務劇を中心に— 郭 常英 (139)

【書評】

末松恵著『少年行刑の歴史からみる知的障害者福祉の萌芽』（大空社、2022年3月）
富永 健太郎 (153)

竹原幸太著『立ち直り・甦りの教育福祉学—少年司法の軌跡と甦育—』（成文堂、2022年11月）
立浪 朋子 (159)

大森万理里子著『「保護」と「分類」の教育社会史—アメリカ日本人移民の児童保護政策と中間団体—』（九州大学出版会、2022年12月）
千賀 愛 (169)

井川裕覚著『近代日本の仏教と福祉—公共性と社会倫理の視点から—』（法蔵館、2023年1月）
藤森 雄介 (176)

末田邦子著『戦前日本における精神衛生相談の成立—理念形成から活動の展開まで—』（春風社、2023年2月）
宇都宮 みのり (183)

【文献紹介】

稲井智義『子ども福祉施設と教育思想の社会史—石井十次から富田象吉、高田慎吾へ—』（勁草書房、2022年11月）

元村 智明 (189)

【自著紹介】

『戦前の東京市の初等教育と「特別な教育的配慮・対応」の研究』（風間書房、2022年9月） 石井 智也 (190)

能田昂『濃尾震災（1891年）における子ども救済と特別教育史研究』（風間書房、2022年10月） 能田 昂 (197)

【委員会報告】

社会福祉歴史教育（第8次）2022年度報告書 (203)

『社会事業史研究』投稿規程・執筆要項・倫理指針 (213)

社会事業史学会 事務局報告（2022年10月～2023年9月） (218)